

「市民の力で未来を拓く 希望のまち」 の実現に向けて

平成22年度 地域づくり総務大臣表彰を受賞

来月からスタートする新たな総合計画。策定過程では、多くの市民の皆さんに参加していただき、さまざまな新しい取り組みを進めてきました。その一連の取り組みが高く評価され、昨年12月、平成22年度地域づくり総務大臣表彰を受賞しました。その取り組みの内容を紹介します。

企画政策課 ☎331255

① 全面的な市民参画

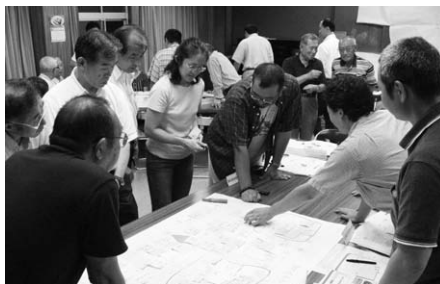
● おだわらTRYフォーラム
無作為抽出によって選ばれた市民による討議会の開催という新しい市民参画手法を導入しました。これは自ら手を挙げて市政に参加するまでには至らない「サイレントマジョリティ」といわれる大多数の市民の声を掘り起こすための手法です。



無作為抽出された3,000人に招待状を送付し、そのうちの200人のかたに参加していただきました。8分野63テーマについての討議によりまとめられた日々の暮らしの視点からのアイデアを、新総合計画に最大限生かしています。

● 地域別計画

地域住民の創意と工夫による住民主導のまちづくりを目指して、25の自治会連合会の区域ごとに、地域の皆さんが話し合い、知恵を出し合って、地域の将来像や自ら取り組む活動などをまとめました。自治会の役員を中心に地域に関わりの深い各種団体役員など、約750人の参画により各地で作業が行われました。この地域別計画と新総合計画を一对として、本市のまちづくりを進めていきます。

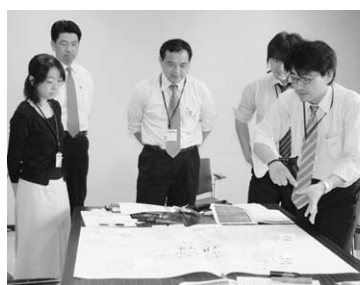


② 組織の垣根を越えた職員参加

● シナリオ・プランニング
計画期間に、本市が歩もうとする道筋を、施策ごとにストーリーとして分かりやすく描きました。このシナリオによって、本市の将来に向けた、市民と行政の役割や行動のあり方を、イメージできるようにします。職員は担当の枠を越えて対話し、作成し、今まで以上に視野を広げて計画づくりに携わりました。

● オープン・スペース・ミーティング

役職や組織、年代などの垣根のない、オープンで自由な対話の場を設け、多くの職員が小田原の未来を探索しました。参加者は自発的にテーマを掲げ、「市民との協働」、「小田原市の職員像」、「小田原駅前(中心市街地活性化)」など26のテーマについてグループ討議を行いました。多くの職員がこのような場に参加したことで、共通認識の高まりや対話の大切さへの気づきなど、さまざまな意識改革につながりました。



地

域づくり総務大臣表彰では、新総合計画の策定に向けたこれらの取り組みについて、サイレントマジョリティの力を掘り起こした点や多くの地域住民が関わって主体的に合意形成を図った点、さらには職員の意識改革、市民や行政の積極的な実践を可能としている点などが高く評価されました。
こうして市民の皆さんとともにつくり上げた新たな総合計画では、これまでに以上に小田原の豊かな地域資源を活用した、市民や地域、各種団体との連携によるまちづくりを進めることで、「市民の力で未来を拓く希望のまち」の実現を目指しています。



大地の恵みに 一工夫

小田原市農産物加工品
普及推進協議会

多くの人でにぎわう「朝ドレファ〜ミ」

小田原には、たくさんのおいしい『食』があります。漁場があり、田畑があり、素材そのもののおいしさの恵みを、新鮮なうちに味わうことができます。そして私たちは、食材に手を加えることにより、その食材の、また一味違う新たな味わいに出会うことができます。今回は、地場農産物加工品のあり方を研究し、安心・安全な農産物の消費拡大を図ることを目的に活動している『小田原市農産物加工品普及推進協議会（以下、協議会）』の活動を紹介します。消費者の新しいニーズにこたえようとする協議会の挑戦が、農産物の魅力を、さらに広げていきます。

問 農政課 331494

**農産物加工の可能性を
探っています！**



協議会会長
天野 信一さん
(JAかながわ西湘・営農部長)

協議会では、平成20年度から農産物直売所である『朝ドレファ〜ミ』と連携し、消費者の視点を意識して、公募した市民モニターとの「交流会」、消費者の声を直接聞くための「試作販売会」、プロの料理人による加工技術向上のための「各種研修」などに取り組んでいます。

また、若い世代の感覚や発想を取り入れようと、平成22年度からは小田原女子短期大学の学生たちと共同で新たな商品の開発も試みています。

協議会から生み出されるものは、市販されている商品とは異なり、他の地域に



ホテル大箱根のシェフの協力により行われた研修会

は無い、小田原ならではの素材を生かしている点が魅力です。

学生の意見を取り入れた

新メニュー

(小田原女子短期大学との交流)

協議会ではより効果的な試作販売会



文化祭『小峰祭』のようす

とするため、平成22年4月から小田原女子短期大学の学生と交流会を開催。

栄養価の高いおからと、今はやりの米粉を使った『ヘルシーよくばりボール』、かぼちゃやさつまいもを練り込んだ『畑の三色白玉』などについて、学生の意見をもとに何度も改良を加え、昨年の同校の文化祭『小峰祭』に出店しました。



試作販売した、畑の三色白玉(左)、ヘルシーよくばりボール



小田原女子短期大学との交流会のようす

「よくばりボールは、だし粉やゆずこしよ、ケチャップなど、お好みで調味料をつけるようにするだけで、若年層にも受け入れられるようになると思います。白玉もとってもおいしかったですよ。私は『かぼちゃ』が一番のおすすめ。素材の特性がしっかりと生かされ、見た目にも鮮やかでした」。(米田さん)



小田原女子短期大学・食物栄養学科2年 米田富子さん

「単純でもおいしいものならば、消費者に受け入れられます。両方もすごくおいしかったので、提供する際の容器にもこだわると、さらに売れたかもしれないですね。野菜嫌いな子どもも、盛り付けや器を変えただけで食べられることがあるほど、見た目も大事な要素なんですよね」。(樋口さん)



小田原女子短期大学・食物栄養学科2年 樋口舞子さん

「自然食品や無添加の加工品って、なかなか手に入らないので、最近とても人気があるんです。お弁当を作れば、健康に気を遣う一人暮らしのかたなどに喜ばれると思うんです。子育て中のかた、アレルギー症状のあるかたも、価格にかかわらず安心できるものを選ぶのではないですか」。(舞原さん)



小田原女子短期大学・食物栄養学科2年 舞原美幸さん

●加工品試作販売会●

【日時】
3月26日(土)・27日(日)
午前9時30分～売り切れ次第終了

【場所】
朝ドレファ〜ミ♪

【内容】
小峰祭で販売した『ヘルシーよくばりボール』と、『春』をテーマにしたお弁当を販売します。どちらも3月に収穫される農産物を使用します。この機会にぜひ、地元の旬の恵みを味わってみませんか。



大盛況だった昨年の販売会

地域で生産したものを、地域で消費する『地産地消』への関心が高まっています。

小田原の食材そのものだけでなく、今回ご紹介した協議会の加工品をはじめ、地場産の食材から作られた加工品にも注目してみてください。

「地場産の加工品を買ってみよう」「自分でも作ってみよう」というかたが増えることで、地産地消の取り組みはますます広がってきます。

また、生産者と消費者が、加工品を通して交流を深め、関係をより身近なものにしていくことは、互いに農産物に対する意識を高め合うきっかけにもなります。

小田原の大地の恵み、その農産物を加工する取り組みは、小田原の『食』を豊かにし、私たちの心にも大切な栄養を届けていきます。

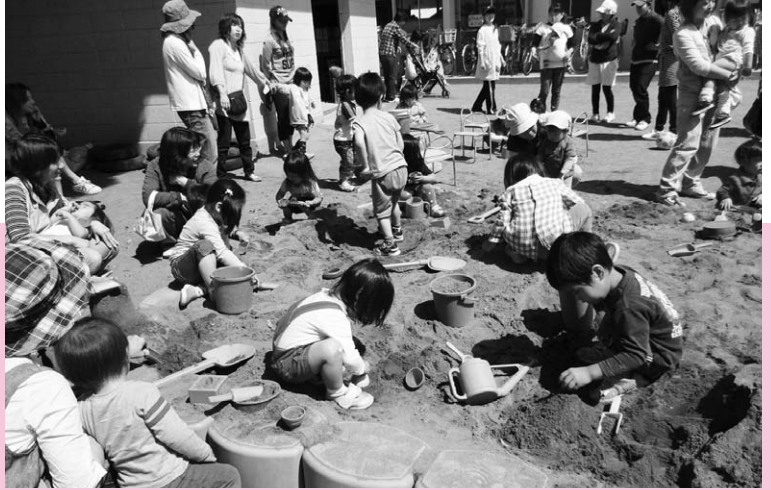


協議会会員
柏木 洋子さん
(朝ドレファ〜ミ♪
加工品出荷協会加工品代表)

野菜のおいしさをよく知っている私たちと、食物栄養学を学んでいる学生さんたちとのコラボレーションで、野菜をおいしくいただくお弁当を提供したいと思っています。



悩みを共有したり情報交換をする場となっている矢作幼稚園



「ちびっ子広場」として園庭開放を行っている酒匂幼稚園

地域の未就園児を対象に、「ちびっ子広場」として園庭開放を行っている酒匂幼稚園では、よちよち歩きから、この春入園する子どもまで、砂遊びや遊具を使った遊びを楽しんでいます。

● 広い園庭で遊ぼう

開放中の園庭からは「広い場所で伸び伸び遊べて、気持ちがいいわ」「親子で、思い切り走っちゃった」と、利用している保護者の弾んだ声がたくさん飛び交っています。

また、園の特徴を生かした交流事業でも、計画段階から子育て支援サークルのかたに積極的に参加していただき盛り上がりを見せています。

ここでは、園庭の開放や子育てサークルとの交流について、各園のようすをご紹介します。

～市立幼稚園の子育て支援事業～

地域とつながる幼稚園

市内の6つの市立幼稚園では、毎月1回の園庭開放や、子育て支援サークルとの交流など、地域の子育てを応援するための、さまざまな事業を行っています。また、幼稚園の教諭が子育てに関するさまざまな相談にも応じています。園児はもちろん、地域の幼児が、心豊かに、健やかに育つことを目指し、取り組んでいます。

☎ 学校教育課 ☎ 33-1683



特に砂場は、シャベルなどを使いながら遊べるので、いつも大人気です。子どもたちが仲良く遊んでいるそばで、保護者もコミュニケーションを楽しみ、友達の輪を広げています。

矢作幼稚園でも、保護者同士が悩みを共有したり、情報交換をしたりする場になっています。「すぐにケンカするのよ」「あら、うちだつてすぐおもちゃを取っちゃうのよ」「大丈夫、大きくなれば…もう少しの辛抱よ」といった会話が尽きません。

報徳幼稚園では、保護者と一緒に砂場やブランコ・滑り台などで遊ぶことができ、直接触れ合える小動物も人気です。

第3学期には、地域の未就園児と園児と一緒に駆けっこをしたり、相撲をとったり、砂場で遊ぶことなども計画中です。



未就園児との交流を計画的に実施している前羽幼稚園



未就園児と園児と一緒に遊ぶ東富水幼稚園

🏠 ホームページ

園庭開放の情報は：
トップページ中央の「分野別から探す」の「子育て・教育」内の「子育て支援」をクリック↓「月刊こそだてカレンダー」

「地下街の再生に向けて」

文 加藤憲一



平成19年に、二度目の運営破綻により閉店となった、小田原地下街。現在は公共地下通路として利用されていますが、シャッターが閉まりガランとした空間は、小田原における経済の地盤沈下の象徴と受け止められてきました。市外の事業者や事業者が小田原に出店を検討する際も、地下街閉店というイメージが大きくマイナスに作用していたと聞きます。「新しい小田原」への歩みがさまざまな分野で始まった今、小田原の元気と可能性を内外に示すと共に、実際にその豊かさを感じてもらうためにも、地下街の一日も早い再生は、本市の最重要課題の一つとなっています。

この間、小田原市と共に地下街の地権者であるJR東日本と緊密に議論を重ね、ようやく、平成24年度末の地下街再開に向けての基本合意が取り交わされます。私自身、このプロセスの中で、市職員はもちろん、JR東日本の幹部を含む担当者や、地域の事業者の皆さんと議論を重ね、改めて新生・地下街の役割について認識を深めてきました。

小田原の豊富で多彩な地域資源が、ギッチリと詰まっている。地下街に来ると、小田原の魅力や豊かさについても出会える。来訪者にとっては、ここで小田原の全体像と魅力を知るビジターセンターにもなる。市民にとっては、小田原の活力をうれしく感じながら滞在や買い物が楽しめる場所となる。地下街を舞台に多彩な交流が生まれ、情報やノウハウが集結する。地産品売り場の活況が地域のさまざまなものづくりを元気にする。地下街のにぎわいが地域経済浮揚のイメージとして発信され、さまざまな交流や投資が小田原に還流する…。つまり、新しい地下街は、単なる「駅に隣接した商業施設」ではなく、小田原の地域振興と、経済再生の拠点施設となるべきなのです。

今回の基本合意の中では、市が事業主体となり、設備改修の投資も行うなど、リスクテイクも含め一歩踏み込んだ方針を掲げましたが、それは地下街が上記のような全市的な課題に極めて大きな役割を果たすからにほかなりません。そして、圧倒的な集客力とノウハウを背景に各地で駅を拠点とした地域再生を多数手掛けるJR東日本と共に取り組むことで、その実現性を高めることができると判断しました。

これから、再生計画の策定作業が本格化しますが、最終的に成否を握るのは、地域の生産者・事業者、そして市民の皆さんが持つ「地域資源」を、惜しみなくこの事業に注いでいただき、ほかのどこにもない「公共」の空間を創れるか、であると考えています。



未就園児と園児と一緒に相撲をとったりする報徳幼稚園

●子育て支援サークルがみんなの遊びをお手伝い

東富水幼稚園では地域の子育て支援サークル「育ちっ子(東富水地区)」と「プーさんの会(富水地区)」と交流しています。毎回幼稚園で遊ぶのを楽しみにしている未就園児は、砂遊びや遊具で遊ぶのが大好きです。園児と未就園児とが触れ合って遊ぶゲームやリズム遊びの時間は、子どもも大人もみんな笑顔になります。

キラキラ光る海の前、ニコニコ笑顔がいっぱいの前羽幼稚園では、地域の未就園児サークル「キラキラ星」と園

児との交流を計画的に実施し、年齢の差があっても楽しく一緒に遊べるよう工夫しています。子どもたちは回数を重ねることでお互いに慣れ、笑顔が多くなり「また来てね!」「ありがとう」と、次の交流を楽しみにしています。

地域の子育てサークル「たんぼぼ会」との交流を実施している下中幼稚園でも「仲良くお友達とブロックで遊んだよ」「大きなブロックで何を作ろうか?」という声が聞かれ、園児と未就園児の心温まる楽しい交流になっています。節分の「豆まき」などの行事を一緒に行うこともあり、豊かな経験ができるように工夫しています。



「たんぼぼ会」のお友達と交流する下中幼稚園